

FLORA KANAGAWA

Aug. 10. 1994 No. 38

神奈川県植物誌調査会ニュース第38号

〒231 横浜市中区南仲通り 5-60 神奈川県立博物館内 神奈川県植物誌調査会
TEL 045-201-1111 内線7359・振替 00230-5-10195



ベニバナヤマシャクヤク。石老山にて（長谷川勝博氏撮影）

神奈川県植物誌1988の調査では確認されませんでした。今回、この写真によって神奈川県でも健在であることが証明されました。花の色をお伝えできないのが残念です。

東 良雄: 神奈川県植物誌に分布の追加される追加される植物について	
-1980年代の記録-	408
山田文雄: シノブカグマを再発見	410
勝山輝男・田中徳久: 再発見されたラン科植物	410
田中徳久: 丹沢の”ササ枯れ”について	412
事務局: 神奈川県植物誌調査会1994年度総会報告	413

神奈川県植物誌に
分布の追加される植物について
-1980年代の記録-

(東 良雄)

神奈川県に在住中、各方面に植物調査に出かけ、その収集資料はすでに県立博物館に提出しています。先頃、植物標本、写真記録を整理しましたら、フロラカナガワ No. 37 (Mar. 1. 1994)までに分布記録のない植物がでてきました。ここに写真とそのときのデータを紹介します。

①ヤマウツボ

Lathraea japonica Miq.

1980.5.31. 長尾根～新大日ノ頭の登山道 (清川-1)。

アズマネザサ *Pleioblastus chino* (Franch. et Sav.) Makino の根もとで花期を過ぎた株を2株発見した。

②キバナノショウキラン

Yuania amagiensis Nakai et F. Maek.

1984.7.10. 西丹沢白石沢 (山北-2) 高度1250m付近。

白石沢キャンプ場から加入道山方面へ向かう登山道付近。周囲にはササ類が繁り、地上にはイワボタンなどもみられる。

③ヤマシャクヤク

Paeonia japonica (Makino)

Miyabe et Takeda

1980.6.1. 丹沢山～西峰方面への登山道 (津久井-2)。高度1400m付近。

丹沢山から西峰、中峰方面へ向かう登山道で発見。付近にトウゴクミツバツツジ *Rhododendron wadanum* Makino が比較的多くみられ開花中であった。

④キヨスミウツボ

Phacellanthus tubiflorus Sieb. et Zucc.
1980.6.15. 箱根宮ノ下 (箱根-6) の高度450m付近。

箱根登山鉄道に沿った雑木林内の腐葉土上で発見。

⑤アオホウズキ

Physaliastrum savatieri Makino

1980.6.14. 箱根神山 (箱根-4) の高度1300m付近。



ヤマウツボ



キバナノショウキラン



ヤマシャクヤク



キヨスミウツボ

シノブカグマを再発見

(山田文雄)

1994年6月26日、横浜市緑区新治町の谷戸をシダの観察に訪れたところ、足元に見慣れぬシダを発見した。葉を一枚採集し勝山先生に見ていただいたところ、シノブカグマであることが判明した。

北西に面する、やや暗くやや湿った急斜面のふもとに2株が接するように生え、それぞれの株は15~21cmぐらいの葉を3枚ずつつけていた。まわりには、直径45cmぐらいのヒノキや高さ10mぐらいのシラカシ、ホオノキ、ハナイカダ、クロモジ、カシワバハグマ、ツタウルシ、ベニシダ、オクマワラビ、ゼンマイなどが生えていた。

神奈川県では過去に丹沢や箱根の山地に記録があるが、植物誌調査では発見されなかった。その後、1988年に山口育子氏が秦野で採集されている(フロラカナガワ No. 27.)。

シノブカグマは本来、寒い地方の針葉樹林下に生育しているもので、緑区新治町のような低地で見つかるのはきわめて稀であろう。

再発見されたラン科植物

(勝山輝男・田中徳久)

『神奈川県植物誌1988』(神奈川県植物誌調査会編, 1988)のための調査では発見できなかったラン科植物のうち、その後、新たに発見されたり、再発見されたものもいくつかある。しかし、現在でも、過去の記録や標本はあるが、再発見されていない植物がいくつかある。筆者らは、そのようなラン科植物を「指名手配種」として重点的に探査を続けている。昨年は、このような種類のうちで、クモランとナツエビネが再発見された(FLORA KANAGAWA No. 37)。今年は、現在のところ、以下のフガクスズムシとキソエビネを再発見



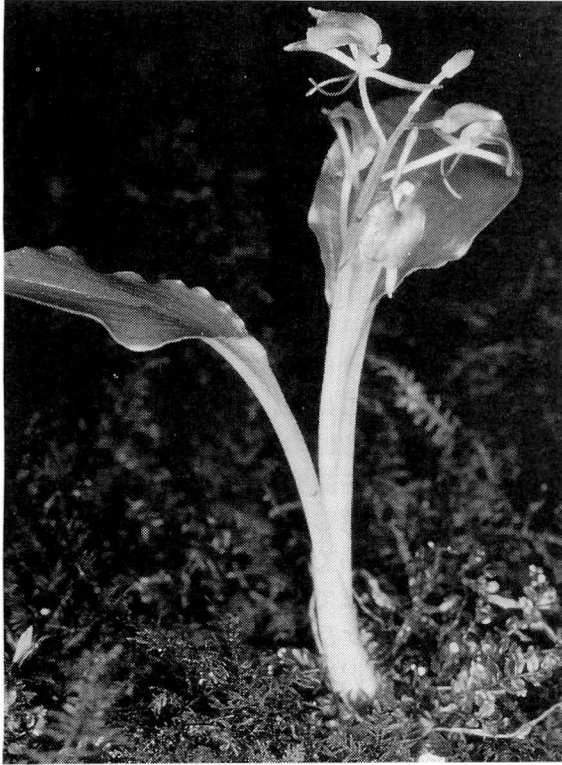
シノブカグマ

することができたので報告する。

フガクスズムシ

Liparis fujisanensis F. Maek.

6月26日に高橋(秀)、森川、田中(徳)、勝山の4名で西丹沢世附川上流を調査した。その際イタヤカエデの樹幹、高さ10mほどの所に、ラン科植物らしきものが20~30株着生しているのに気がついた。双眼鏡で観



フガクスズムシ

察すると、背景の空を透かして褐色～ピンク色の花が認められた。葉の様子からクモキリソウ属と推定された。クモキリソウ属で樹幹のコケの中にはえるものといえば、フガクスズムシが考えられる。しかし、ジガバチソウも岩上や樹幹に登ることもあり、なんとしても採集して確かめたい。樹上の着生植物を採集するために、長さ7mのつなぎ竿（たも網）を購入し、その先に鎌をつけたものを作成していたが、この日は持参しておらず、どうしても手が出ない。5mほどの所までは登れるが、それ以上は無理である。4人で1時間近く、木の下に座り込んで上を見上げていたが、この日は諦めることにした。

翌週の7月2日、木場、勝山の2名で7mのつなぎ竿を持ち、再度現地にでかけた。5mまで木を登り、そこからつなぎ竿をのぼすと、かろうじてとどいた。鎌の先でコケをひ

とかきすると5～6個体がコケと一緒に落下してきた。花を確認したところまさしくフガクスズムシであった。

フガクスズムシは富士山とその周辺、信州鉢伏山、紀伊半島のブナの樹幹に着生するランで、神奈川県では丹沢山地に記録はあるが、植物誌1988の調査では標本が採集されていなかった。

フガクスズムシは花や草姿がクモキリソウとスズムシソウの中間的な形態のため、両者の雑種ではとの議論もあるが、クモキリソウ、スズムシソウともに地生であるのに対して、フガクスズムシは必ず樹幹に着生していること、スズムシソウとは花期が1ヶ月近くずれていることなどから考えて両者の雑種起源とは考えにくいと思われる。

いずれにせよ、フガクスズムシが丹沢に健在であったことは喜ばしいことである。

キソエビネ *Calanthe schlechteri* H. Hara

7月12日、勝山、田中（徳）により箱根で再発見された。本種はイトスゲ・リョウブ群集と思われる林分の植生調査を実施中に、勝山が確認し、植生調査資料にも記録された。

本種を発見した地点は、リョウブは比較的少なく、トウゴクミツバツツジやサラサドウダンが優占し、草本層には、イヌヤマハッカやハコネイトスゲ、シロヨメナ、シモツケソウなどが生育していた。筆者らは、調査区周辺も探査し、計3株の本種を確認した。箱根には、今回の再発見地と類似の環境が多いため、詳細に調査を実施すれば、個体数としてはさらに発見される可能性がある。ただし、本種のようなラン科植物は、一部の園芸家の好餌になりやすく、また、エビネ業者と呼ばれる山草業者も存在するため、登山道沿いの個体、ないしは個体群は絶滅状態であると思われる。

本種については、神奈川県立博物館には、1930年、1964年に駒ヶ岳で、1965年に神山中で、

1962年に松洞丸でそれぞれ採集された標本がある。また、1979年以後の記録としては、『日本の野生植物、草本 I 単子葉類』（佐竹義輔ほか編、1982）に、村川博實氏が1980年7月6日に箱根で撮影した写真が掲載されている。

この他にも、アツモリソウ、イチヨウラン、カモメラン、アケボノシュスラン、カシノキラン、ヒメミヤマズラ、ノビネチドリ、ダイサギソウ、ムカゴソウ、コフタバラン、アリドウシラン、ミヤマモジズリ、フジチドリ、ヤマサギソウ、マイサギソウ、コバノトンボソウ、キソチドリ、トキソウ、ヒナチドリなど、過去の記録のみが残されているラン科植物がたくさんある。これらの種が再び発見されることを期待しつつ、調査を続けていきたい。



キソエビネ

丹沢の“ササ枯れ”について

(田中徳久)

丹沢山塊の植物については、近年、モミヤブナなどの上層木の枯死や、シカの食害による林床植物の減少などが問題となっている。また、ブナ林などの林床の“ササ枯れ”（スズタケなどの枯死）についてもよく耳にする。筆者は、丹沢大山自然環境調査の植物相の調査に、神奈川県植物誌調査会の会員として参加し、その“ササ枯れ”の状況を目の当たりにしたので、ここに報告する。

今年度、既に数回の調査に参加し、丹沢山塊の各地の状況を観察した。特に、“ササ枯れ”がひどいと感じたのは、5月28日に調査を実施した塔ヶ岳であった。当日は、玄倉林道を熊木沢出合まで車で移動し、尊仏ノ土平から西側から塔ヶ岳に向かった。下りは、山頂手前から箒杉沢に向かって、現在は廃道となっている旧登山道を降りた。登り始めは、スギなどの植林の中を進んでいくが、1100m附近より、ブナ林の中を歩く気持ちの良いコースであった。時期的に、新緑の美しい季節で、また、昨年がブナの実の当たり年であったようで、その芽生えも観察することができた。しかし、その林床のスズタケは惨憺たる状況であった。その林床に密生していたであろう、スズタケがほとんどすべて枯死しているのである（写真）。以前なら、林内を踏査するにあたり、“やぶこぎ”を余儀なくされたものであるが、まったくその必要はなかった。枯れた稈がただ立っているだけであった。丹沢のササが枯れていると、以前から聞いてはいたが、ここまで悲惨な状況とは思ってもみなかった。

このササ枯れの原因としては、シカの食害であるとも言われているが、あまりにも激しいため、それだけが原因とも思えない。テングス病などの病気が原因とも思える。さらには、スズタケの寿命が一斉に来たのではない

かとさえ思いたくなる。もっとも、ササの枯れた明るい林床に、他の植物が少ないことから考えて、シカの影響も大きいものと思われる。今、芽生えているブナの実生がどれくらい生き残ることが出来るだろうか。シカの食害がなくとも、非常に少ない確率でしか生き残らないと思われるが、シカの食害により、その確率はさらに下がるであろうと想像される。

その後、西丹沢の菰釣山や、大山を踏査したが、今のところササは健在であった。塔ヶ岳の状況と比べ、いったい何が異なるのか、何の影響の差によるものか、想像するしかないが、不思議なものである。現在、進められている丹沢大山自然環境調査によって、何らかの解答が見つかるかと思うが、この状況が、今後どのように推移していくか、継続的に見守っていく必要があるのではないだろうか。



ブナ林林床の“ササ枯れ”

神奈川県植物誌調査会

1994年度総会の報告

(事務局)

去る4月10日(日)、平塚市博物館において1994年度の総会が開かれました。1993年度の事業報告と決算報告がなされ、続いて1994年度の事業計画と予算案を審議し可決されました。総会後は、大場達之氏の「千葉県のフロラ調査」に関する講演と、「花ごよみを作る」という題で、浜口哲一氏による湘南ブロックの活動の紹介がありました。

1993年度 事業報告

1993. 5. 5 1993年度総会(横須賀市博物館)

1993. 8. 10 フロラカナガワ36号発行

1993.10.16 野外調査研究会(雨山峠)

1993. 3. 1 フロラカナガワ37号発行

- ・植物誌の頒布
- ・靱山泰一先生米寿記念著書目録・論文集の編集
- ・丹沢大山自然環境調査(植物相)への参加
- ・神奈川県版レッドデータブック作成への協力
- ・神奈川県立博物館の情報システムへの協力

植物誌1988完売記念行事（11月頃）
 籾山泰一先生米寿記念論文集の出版
 丹沢大山自然環境調査（植物相）への協力
 （継続）
 神奈川県版レッドデータブック調査の協力
 （継続）
 神奈川県立博物館の情報システムへの協力
 （継続）
 地域フロラの刊行（まとまったものがあれば）

1994年度運営体制

神奈川県植物誌調査会役員

顧問 籾山泰一
代表 村上司朗
運営委員 秋山 守，内田藤吉，大場達之，
大森雄治，小崎昭則，小原 敬，
笠原基知治，城川四郎，小林純子，
鈴木一喜，諏訪哲夫，高橋秀男，
西山清治，根本 平，長谷川義人，
浜口哲一，早川亮太，守矢淳一，
山本 明
事務局 勝山輝男，木場英久，北川淑子

1994年度事業計画

フロラカナガワの発行（年2回，7月，1月
 頃を予定）
植物誌の頒布（今年度中に完売見込）
野外研究会

「神奈川県植物誌1988」の残部がなくなりました。第1刷分が1,500部，増刷分が1,000部，合計約2,500部が売れました。今後は植物誌の改訂に向けてデータの収集を進めていきたいと思えます。今秋には植物誌2000の調査の結成を考えています。今後ともよろしくお願い致します。